

ダルニーフォーラム

第十五号

2014年6月

www.edfthai.org/jp

元奨学生のご紹介

感謝の気持ちをいっぱいこめて、これからはチャンスを与える立場に



これまでの私の人生

私はルーイ県チェンカー郡出身です。私の家は畑作をし、また物売りをしていました。父や母は朝暗いうちから働きに出るので、姉と私の二人は幼い頃から、自分の事は自分でちゃんと責任を持つように言われてきました。ごはんの支度のため朝は早く起きなければなりません。それから自転車で3km離れた小学校まで通いました。そのほかにも、家事に関する多くのことを、母の代わりにこなさなくてはなりません。でもたとえ父や母と一緒にいる時間がどんなに少なくても、ともに我慢するのが家族と信じていました。母から聞かされたのは「私らのようなものは勉強して賢くなる必要はないけれど、勤勉にね。そしてこの境遇に負けたくないこと。私たちにだってみんなと同じように成功することはできるはず。」ですから私は、自分自身のためにもいろんなチャンスに巡り合えるよう一所懸命勉強しました。決して家に心配事を持ち込まないようにしました。

ある日先生が、EDFという団体からの奨学金の候補として私を推薦してくれました。そして私は中学から高校(1992 - 1997年)までの奨学金を受けられることになったのです。父と母は、私が休みの日には両親を助けて市場で物売りをしたり、校内の生協で先生のお手伝いをして働いた上に、一所懸命勉強したことで奨学生になれたことをとても喜び、誇りにしてくれました。

高校を卒業したあと、私はバンコクのシーナカリンウィロート大学(名門教員養成大学、現在は他の学部も展開)教育学部・数学専攻科で、勉強を続ける機会を得ました。数学教師早期養成プロジェクトの奨学金を受けることになったのです。ところがバンコクでの物価・生活費はとても高いのです。アルバイトをし、勉強をし、そして節約もしなければいけない、という生活でした。家族の心配を最小限にするため、私はアルバイトとして自分にできることは何でもやりました。ファストフードの店員、保育園でも働き、家庭教師もやりました。

私が受けたEDFの奨学金について。

田舎に住む子どもにこのようにチャンスを与えてくださったことに対し、私は深く感謝し、奨学金を出してくださった方に心からありがとうございますと伝えたいです。EDFからは奨学金提供者に手紙を書くよう勧めを受けました。それでいつも奨学金を送って下さる方に手紙を書きましたが、その方は優しく毎回お返事を下さり、私が一所懸命勉強できるようにと励まし配慮して下さいました。それに応えようと頑張って大学進学を果たしたのですが、本当に感動する事には、更に学士取得に至るまで、援助をし続けてくださったのです。卒業して働き始めたら、いつか日本に行ってドナーの方にお会いしたいと思い、私のことを手紙でお知らせし続けました。でもそのうち、やり取りは途絶えました。今はまた、何とかして連絡を取りたいと思っています。

元奨学生のデータ

MS. ティティシャヤー・ウォンタンノイ
元 : ルーイ県EDF奨学生 中学1年
- 高校3年(1992 - 1997年)
教育レベル : Master Degree (Education)
ナレースアン大学
現在 : バンコク・ボーディンデーチャー
一高校教諭

現在私は、バンコクのボーディンデーチャー高校の教諭の職を得て数学を教えています。

子どもの時から夢見ていた、安定した職業に就くことができた私を、ドナーの方にお見せできることになりました。両親はこれを大変誇りにしてくれ、私もよい子どもであることをうれしく思っております。奨学金提供者である私の「日本のお父さま」、いつの時でも一心に私に対してご支援して下さいましたお気持ちに、報いることができました。

昔に比べれば、教師の一家という事で私たち家族の暮らしぶりも向上し、小学校中学校の生徒たちに、私のことが紹介されるようにもなりました。チャンスを手掴んでいくことが私たちの社会全体に報いる事にもつながるのです。私も、子どもたちを助けてアドバイスし、チャンスを与えて行くつもりです。

奨学金実績レポート

「チャンスを与えてくださったドナーさんは子どもにその道を示す一筋の光となる」

「チャンス」を得るとのこと。たとえそれがどんなに小さいものでも、誰でもそれを大きく育むことはできます。しかし時に私たちはそのきっかけを作り出していく人にならねばなりません。

チャンスは、いつも探し求めなければなりません、探し求めていけば、またチャンスは向こうからやって来るものでもあります。そしてチャンスが巡ってきたら、しっかり掴んで手放さないようにしなければなりません。とても逃しやすいものなのです。本当によいチャンスというもの、たった一度だけ巡ってくるものだからです。

EDFの奨学金制度について申し上げたいのは、遠く離れた田舎の生徒たちに、チャンス創出の手助けをして下さっているという事です。社会の中で良い人間、良い大人になるため、子どもにその道を示す一筋の光となっていると信じています。

私たちの社会は発展していき、そしてまたほかの人にもチャンスが繋がっていくのです。

私は私の使命と思うものに一所懸命務めてまいります。そして昔、自分が受けたのと同様に、他の人に対してチャンスを提供していきたいと思っています。

現在、EDFの奨学金を受けている生徒の皆さん、しっかり勉強してくださいね。自分自身のためにも最善の努力をしてください。そしてどのような困難にも負けを認めないで。真剣に取り組んでいけば、必ず成功はやって来ます。それは遠い未来ではありません。



今年2014年度のEDFの募金活動は非常に難しい状況の中にありました。皆様ご存じのように、タイの政局の混乱が長引き、景気も低迷し、様々な事業がその悪影響を受けています。しかし、そのような状況にもかかわらず、既存ドナーの皆様から引き続き暖かいご支援・ご協力をいただき、又皆様からお知り合いに「ダルニー奨学金」をご紹介いただいたことで多くに恵まれない子どもたちに支援を届けることができました。

この場を借りまして皆様のご支援に心からお礼申し上げます。更に、現在ではEDFのウェブからオンラインで簡単にご寄付いただけますので最近このチャンネルをご利用になる方が徐々に多くなっています。

2014年度の募金活動の報告の実績は下記のようになります。

期間：2013年7月より2014年5月まで

奨学金を受ける中学生合計 **6,392人**。そのうちのEタイプという金額を指定しない奨学金と募金箱へのご寄付からは **145人**の子どもたちに奨学金を提供することができました。

現在EDFでは各学生の進学状況を最終確認しておりますと共に、2014年6月から2015年度の募金活動を既にスタートしています。引き続き皆様の暖かいご支援・ご協力を引き続きお願い申し上げます。

ニュース・イベント

在タイアメリカ婦人協会が375口の奨学金をご支援



2014年6月3日、在タイアメリカ婦人協会 (American Women's Club of Thailand)は、EDFオフィスにて、毎年継続している地方の女子奨学金支援活動について会議の上、2014年度として2,250,000バーツのご寄付をいただきました。

自転車寄贈式

2014年6月14日、Sino-Pacific Trading (Thailand) Co., Ltdの代表者とEDFのスタッフは、自転車贈呈式を行うためにプラチンブリー県のバーンブルーワイヤイ校を訪問しました。この活動では、タイ東部の2県(プラチンブリー県とチャチュンサオ県)の通学に困る学生500人に500台の自転車を提供しました。これにより学生たちの通学が便利になると共に、健康にも良いと喜ばれています。



ICTの子どもを育てるAlcatel-Lucent (Thailand)のプロジェクトが前進

2014年6月16-17日、Alcatel-Lucent (Thailand) Co., Ltd. よりサポートされたICT促進活動の「Thai Cyber Kids」プロジェクトがスタートしました。当日、支援対象のアンタヤ県にあるワラートバムルン校の学生たちのためにコンピューターの操作やインターネットの使い方などの講演が行われました。Alcatel-Lucent (Thailand)の代表取締役Mr. Sebastien Laurentをはじめ、アンタヤ県知事とEDF-Thai事務局長のSunphetも参加しました。



The Education for Development Foundation (EDF)

50, Kasetsart University Alumni Bldg., Phaholyothin Rd., Ladyao Jatujak, Bangkok 10900

Tel. 0-2579-9209-11 (タイ語) 0-2942-8538 (日本語) Fax. 0-2940-5266

Email: public@edfthai.org URL: www.edfthai.org/jp

日本でのお問い合わせ：一般財団法人 民際センター

〒162-0081 新宿区山吹町337 江戸川橋東誠ビル5F

TEL: 03-6457-5782 FAX: 03-6457-5783

Email: info@minsai.org URL: www.minsai.org